

市民と議会

小田原市議会をを考える市民の会ニュース

HPは [小田原市議会をを考える市民の会](#) で [検索](#) して下さい



発行 第 12号 2022.7.11

編集 [小田原市議会をを考える市民の会](#)

発行責任者 越中谷 庸三

事務局 小泉啓子

連絡先 090-9249-0419



私達の会は「開かれた議会」の実現を目指し、不偏不党の中立な立場で市民と議会の架け橋になる活動をしています。

先の統一地方選挙からの3年間にはコロナ禍に伴う様々な問題、市長の交代、「世界が憧れるまち小田原」に向けた「2030ロードマップ」の策定など市政にも大きな動きが見られました。

市議会議員の皆さんがこの任期に何に重点を置いて活動されて来たか、また市民でも知らない人が多い「政策監」※についてどう考えておられるかを議員の皆さんに聞くアンケートを4月15日に発送し、5月31日を期限としてご回答をお願いしました。

アンケートの質問と回答を下記の通り報告します。残念ながら期限までに、ご回答頂けなかった議員は名前だけ記しました。議員の名前の順番は令和4年5月18日現在の市議会 あるいはお順です。

問1. 先の統一地方選挙から3年間、一番関心を持ち取り組まれましたことは何ですか、

このことを「選挙公報」に書かれましたか。(回答は はい、いいえ)

問2. 新たに設けられた政策監(※注)は小田原市の行政にどのように役立っているとお考えですか。

※注「政策監」とは：市長の特別秘書。市の組織に属さず、市長が指名する特別職。任期は1年で再任は可能。(地方公務員法 第3条第3項第4号に基づく)

令和2年6月議会の議案第78号「小田原市政策監の設置に関する条例」が下の通り賛成多数で可決され、設置が決定しました。

賛否の状況： (小田原市議会ホームページから (議長は網掛け 会派は令和2年6月25日時点)

会派名	日本共産党			新生クラブ			公明党				誠風							志民・維新の会					緑風会				
	24	25	26	3	4	14	5	6	15	16	7	8	9	10	17	18	19	20	27	1	2	11	12	21	13	22	23
議員名	横田英司	岩田泰明	田中利恵子	清水隆男	小谷英次郎	俵鋼太郎	荒井信一	金崎達	奥山孝二郎	楊隆子	宮原元紀	池田彩乃	角田真美	鈴木和宏	神戸秀典	篠原弘	井上昌彦	大川裕	加藤仁司	安野裕子	鈴木敦子	鈴木美伸	杉山三郎	武松忠	川久保昌彦	木村正彦	鈴木紀雄
議案第78号 小田原市政策監の設置等に関する条例	可決	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	○

現状の会派構成 (令和4年5月18日現在)

日本共産党 田中利恵子 横田英司 岩田泰明 **公明党** 奥山孝二郎 楊隆子 荒井信一 金崎達

誠風 加藤仁司 大川裕 井上昌彦 篠原弘 鈴木和宏 宮原元紀

志民・維新の会 安野裕子 武松忠 鈴木美伸 杉山三郎 鈴木敦子 小谷英次郎

緑風会 鈴木紀雄 木村正彦 川久保昌彦 角田真美 **誠新** 俵鋼太郎 神戸秀典 清水隆男 池田彩乃

これを受け、令和2年6月26日、市長は次の者を政策監に任命したと記者発表しました。

再任により現在も在任中。年俸は約1,000万円。神奈川県下で政策監が活動しているのは小田原市だけ。市の広報紙で、その任命・活動状況が公表された事はない。市のHP・小田原市長動向の中に時々、「政策監」の記載があります。

(記者発表資料から)

八木 大二郎(56歳) 令和2年6月26日～令和3年6月25日 任期は1年ですが、再任は可能です。
 《最終学歴》 明治大学大学院ガバナンス研究科修了 《主な経歴》 城山町職員 城山町議会議員 城山町長
 ※相模原市との合併により退職 相模原市議会議員 神奈川県議会議員 《住所》 相模原市

荒井 信一

問1：本市の歴史ゆかりの地を生かした、観光施策による誘客とおもてなしについて、取り組みました。特に、本市の潜在的な歴史と文化遺産の活用と新たなコンテンツにて誘客と経済の好循環の促進を提言してまいりました。(いいえ)

問2：政策監は本庁と県庁との政策におけるパイプ役であり、様々な調整と県からの補助金の折衝など実施していると認識しております。

池田 彩乃

(お答えいただけませんでした。)

井上 昌彦

問1：小田原市も地方自治体が共通する課題、人口減少や少子高齢化、雇用の不安定化、社会的格差の拡大、財政硬直化、コミュニティの衰退などを抱えています。それに加え、お城や文化財の保護、河川や山林、里山の環境保護、など歴史や地形による小田原ならではの課題もあります。それらの課題に対し、先進自治体の調査・研究、小田原市の強み発掘、コミュニティとの意見交換など課題解決のために幅広い活動を行ってきました。(はい)

問2：市長は、本会議で、政策監の役割について、「政策監は、市長のサポート役として、市長からの指揮命令を受ける立場にあり、主な仕事は、これまでの政治経験などを生かし、企業誘致や公民連携、国や県との連携強化に資する団体対応などの重要施策について、折衝や調整、助言等を行う。」と答弁しました。総合計画の策定に政策監も関わっていたと思います。その実現度が政策監の評価のひとつとなるでしょう。

岩田 泰明

問1：支所ならびに支所併設社会教育施設の復活。2019年3月の支所等廃止は、団体自治の解消という自治体にとって最上位の決定に伴う町村合併時の合意を反故にしたもの。合併後に旧町村役場に「市町村内の特定区域を限り主として市町村の事務の全般にわたって事務を掌る事務所を意味する」支所を配置したことは、本市の住民自治、行政提供の在り方を規定したもの。廃止に正当性なく、支所等の復活と機能強化を求めてきた。(はい)

問2：特別職の幹部職員として新設された政策監は、守屋市長の市政運営において必要として設置されたものである。その観点からは、再任もされており役立っているといえる。しかし、政策監職がなければ、市政運営に支障をきたすとの証明はなされていない。他自治体で同種職が一般的に設置されておらず、それら自治体と本市の行政運営に顕著な差はないものと考えられる。よって、この点からみれば特に役立っているとは言えない。

大川 裕

(はい)

問1：地域経済

問2：政策監は市長のサポート役としてこれまでのキャリアを生かし、企業誘致をはじめ、デジタル化や公民連携、国や県との連携強化になどの重要施策について調整、助言を行っていること承知していますし、今後も期待する所です。

奥山 孝二郎

問1：①地元中小企業の経済促進の為、入札、プロポーザル等市内業者優先の取り組み ②市民サービス向上のため、仮「おくやみコーナー」等の実現 ③市民の生命守る「ドクターヘリ」等の更なる推進④防災減災、国土強靱化 ⑤伊豆湘南道路の推進 ⑥SDGsの取り組み (はい) (いいえ)

問2：国県などによる交付金、補助金などの獲得に大きな役割を担っている、大いに評価している。現にデジタル田園都市国家構想推進交付金など小田原市の採択額は2億979万であり。市町村で全国1位、都道府県含めても2位である。これからも国県等の交付金など細かくチェックし小田原市に貢献してもらいたい。

加藤仁司

問1：我が国における喫緊の課題は少子高齢社会への対応であると思っています。子育て環境の充実が叫ばれていますが、家庭育児に関して十分な施策が行われているかは疑問であります。昨今、多様で複雑な家庭環境の中であって、子育てに特化した家庭を支援する条例制定を目指して一般質問も行ってきました。また、高齢化への対応として、この3年間だけではなく継続して買い物難民対策としての新交通対策の必要性についても取り組んできました。(はい)

問2：政策監の業務内容と成果については、既に本会議に置いて市長からの答弁により示された通りだと思っています。行政の広い分野での調査、調整をはじめ、各政策に係る検討、人脈を生かした人物の就任要請等は、議会や行政の首長の双方を経験されてきた政策監だからこそ実現できた事例としても高く評価するものであります。政策監は市長の政策実現に大いに役立っていると思っています。

金崎 達

問1：この3年間「安全で安心して暮らせるまち」「活力のあるまち」の実現に向け、障がいのある方、家族等に特化した3種類の「災害への対応ハンドブック」の策定。逃げ遅れゼロを目指す、わが家の「マイ・タイムライン」記入シートの新設。コロナ禍における地元事業者の相談窓口の設置（現在は「経営改善相談窓口」に継続）。農地の災害復旧への新たな支援制度の創設など、防災、福祉、地元事業者対策に取り組んで参りました。(はい) (いいえ)

問2：コロナ禍、アフターコロナに向け、守屋市長の様々なスピード感が求められる多くの政策において、良き支えとなっていると考えます。

川久保 昌彦

問1：安心安全の街づくりについて※大規模地震等の自然災害の脅威はもとより、市民等の日々の暮らしにおいても、共生の意義を尊重し、全ての命と財産を守り抜くこと。(複合災害を想定した広域避難所運営及び行政と市民の役割明確化等)

問2：関係行政機関等との横断的な調整などにおいて、市長の意向を踏まえ「特別秘書」としての責務を遂行しているものと考えます。(第6次総合計画を確実に進めることを期待します。)※同職は地公法第3条を法令根拠とする「特別秘書」とした市長の専権事項であり、かつ同法の規定により、給与等詳細についても条例(決議済)で決められており、支障はないものと判断します。なお、選任に当たっては副市長等とは異なり、議会の同意は不要です。(はい)

神戸 秀典 (お答えいただけませんでした。)

木村 正彦 (お答えいただけませんでした。)

小谷 英次郎

問1：選挙公報に書いた教育、子育て政策に最も力を入れて取り組みましたが、自身の得意分野だけではなく、幅広く市の事業すべてを把握してこそ真の政治家だという意識を常に持ち、市の601事業すべてを担当者レベルから聞き取り調査を行うなど、全網羅的に仕事しました。質疑や討論では常に世界的視野を持って、最新の世界や国の動きを紹介しつつ市の事業を俯瞰しました。選挙公報の文は今もホームページのトップ画面にあります。(はい)

問2：何度も議会で問いましたが、明確な答弁がありませんでした。私の過去の一般質問や約2000回再生されている政策監の問題点を指摘したYOUTUBE

(<https://www.youtube.com/watch?v=sDER07YZlc0&t=600s>)をご参照下さい。初期の仕事内容は特定の議員との面談が大半でした。神奈川県で小田原市のみの設置、市長給与とあわせてコストパフォーマンスの悪さは確実に指摘できます。税金でお友達を利する人事自体が私は異常であると考えています。



篠原 弘	
問1：「防災・減災」	(はい)
問2：政策監は、市長のサポート役として、これまでの政治経歴など幅広い見識を生かし、企業誘致をはじめ、デジタル化によるまちづくりや公民連携。国・県との連携強化に資する団体対応などの重要施策について、折衝や調整などを行っていることを承知している。	
清水 隆男	
問1：子育て・教育環境の改善、労働・雇用環境の改善、安心して暮らせるまちづくり。中でも教育環境の整備・改善、そして子どもたちの健やかな学びを保障するための教職員の働き方改革については、関心を持って取り組んでまいりました。子どもたちと先生がじっくり向き合える時間を確保することはとても重要であると考えます。スクール・サポート・スタッフの配置や感染症対策、ICT教育等について質問し教育環境の充実を求めました。	
問2：政策監については、市の人口増に向けた新たな雇用の創出や地域経済の振興のための企業誘致、市がめざすデジタル化における市内デジタル事業者等との連携推進、またさまざまな分野での民間事業者との公民連携事業の推進などにおける取り組みにおいて、一定の評価をしています。一方、政策監の活動やその効果が把握しづらいといった意見もあり、積極的な情報発信とともに、その効果を客観的に検証する必要もあると考えています。	
杉山 三郎	
問1：私は「地方の時代」の中、10年先、20年先を見据えたまちづくり、次世代に渡せるビジョンを示し、小田原の持てる資産を生かし、魅力ある都市づくりを進めなければなりません。また、「福祉、医療、健康、教育、環境、災害」などの住民ニーズを的確に把握し、即対応できる体制づくりが急務であります。夢を語るだけでは、住民の安全、安心、豊かさをかなえることはできません。行政改革を進め、財源確保策を図ります。	
問2：私は政策監について、必要であると考えます。官民一体の行政運営については民間企業との連携を図るうえではありと考えます。	
鈴木 敦子	
問1：1. 防災→被災地視察等 2. 地域課題→おでかけサポート、耕作放棄地・鳥獣被害対策、空き家バンク 3. 女性活躍推進→小田原ウイメン・プラスで女性の活動応援・講演会等を主催 4. 子どもたちを取り巻く環境の改善→学校現場のいじめ・人手不足・障がい児への支援についての勉強会を開催 5. 文化芸術振興→美術展、収蔵作品の調査、 6. オンブズマン立ち上げに協力 7. 福祉→コロナ禍での生活困窮者への支援等	
問2：政策監は市長の特別秘書であり、市の組織には属さないとのことだったが、今まで担当部署は市長・副市長に説明すればよかったことが、政策監にも説明をしなければならず、仕事が増えていて、現場を混乱させているように思う。1千万円近い税金を支払うことに疑問を感じる。	
鈴木 和宏	
問1：・本市の脳血管疾患死亡率の改善 ・一次産業従事者の所得向上と作業環境向上の仕組み ・盛土問題 ・公共施設のマネジメントと包括管理の件 ・障がい者、高齢者の福祉 健康寿命の延伸 (はい)	
問2：市長の補佐役として、市長の指揮命令のもと、企業誘致や公民連携、国や県との連携強化に資する団体対応などの重要施策について折衝や調整、助言等を行う立場と承知している。	
鈴木 紀雄	
問1：市民の生命・財産を守るのは自治体の重要な使命です。様々な災害による被害を最小限に納めるため「防災安全都市」を目指し、諸施策の要望・実現に向け活動を続けています。	
問2：政策監の活動は、表立って見えるものではありませんが、もう少し精力的な活動の状況が見えればよいと考えます。	

鈴木 美伸

問1：令和2年6月定例会一般質問 小田原市都市計画マスタープランと早川・片浦地域の活性化について
令和2年9月定例会一般質問 早川・片浦地域の活性化について
令和3年12月定例会一般質問 早川・片浦地域の活性化について (いいえ)

問2：執行部は政策監の成果については、実際に政策監がこういうふうにやりましたというような報告を議会に対して考えてないとのこと。

政策監は小田原市の行政にどのように役立っているかという問いですが、実際に政策監が取り組んだ事業とか施策については、ハッキリとわかりません。この設問には答えることが出来ません。

武松 忠

問1：「市政情報の見える化」です。

① 月刊武松発行（182～201号）

ホームページ <http://www6.airnet.ne.jp/takematu/gekkan/>

「月刊武松」から号数を選択して閲覧ください。

HP



② facebook、twitterによる新型コロナ感染状況のグラフ化と情報提供

<https://www.facebook.com/tadashi.takematsu>

<https://twitter.com/ttakemat>



(はい)

問2：・役立っているかどうか見えない。

・政策監が退任後、次期統一地方選で相模原等の選挙区から立候補するか注視する必要がある。

田中 利恵子

問1：18歳までの子どもの医療費無料化、認可保育所の増設で待機児童解消、重度障がい者医療費無料化の堅持、特別養護老人ホームの増設、住宅リフォーム助成の拡充、津波や防災対策の強化、支所等廃止見直し、介護保険料、国民健康保険料の大幅な引き下げ等。これらは選挙公報に記載あり。

アンダーラインの部分は負担軽減を実現。太ゴシックの部分は市民のみなさんと一緒に実現。

(はい)

問2：政策監が市政に、具体的に何にどのように役立っているのかはよく把握できませんので、実は最もそこが問題だと考えています。これまで同様批判は免れないと思います。2020年6月定例会において「小田原市政策監の設置等に関する条例」案に私ども日本共産党の議員3名含む9名の議員が反対しましたが、問題点は未だに不透明感があります。

俵 鋼太郎

(お答えいただけませんでした。)

角田 真美

問1：私は子育てしてきた経験から、この1期目には小田原市が子育てしやすいまちになるための施策に力を入れてきました。残念なことに新型コロナウィルス感染症拡大のために各地域での子育て中の皆さんとのミーティングは実現しませんでした。「子ども食堂」「児童虐待」「文化継承」などは一般質問に挙げました。また、タウン誌では「子育て」に関する意見広告もたびたび掲載してきました。これからもこのことは続けていくつもりです。

(はい)

問2：政策監設置について私は賛成の立場です。理由は守屋市長就任当時の小田原市は新型コロナウィルス感染症が拡大し医療崩壊が心配される状態であり、その渦中人口増のための企業や国との交渉ごとで市長が度々市外へ出向き席を外すことが市にとってマイナスだと考えたからです。対外的にどのように動けば効果的か、かつて市長を目指した八木氏なら適任とも考えました。現在第7波が騒がれ学級閉鎖も続くことから今後も同様と考えます。

宮原 元紀

問1：「小田原をもっと元気に」「山川海をもっと生かしたまちづくり」をテーマに山・野生イノシシの豚熱についてや、昨年の土砂災害では当日昼には被害状況把握し行政と連携。川・酒匂川の堆積土砂と沿岸の養浜事業について、冠水を繰り返す酒匂川スポーツ広場について等。海・海岸における安全環境について、公設地方卸売市場について(青果・水産)、ビーチパーク等。小田原をもっと元気に・地域経済と健康増進スポーツ環境の観点。

(はい)

問2：裏面に続く

問2：「これまでの政治経験など幅広い識見を生かし、企業誘致やさらなる公民連携、国や県との連携強化に資する団体対応などの重要施策について、折衝や調整。助言等を行っている」との市長ご答弁の通り、様々な場面でそのご活躍を拝見しています。

安野 裕子

問1：子ども・高齢者・障がい者の方の視点に立ち、いつまでも安心して住み続けられるまちづくりに注力しました。また、次世代の負担を軽減し、且つ、今を生きる市民生活を充実させる為、財政を厳しくチェックしてきました。(はい)

問2：政策監の職務内容について議会へ具体的な報告がない為、回答出来ません。

楊 隆子

問1：「医療・福祉の充実」

・本市は脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）死亡率が高く、生活習慣病予防（高血圧・動脈硬化等）を抑制する手段の一つとして、「自分がどの位の塩分を摂取しているかを自覚」するために、尿で1日の塩分摂取量がわかる検査（ハルナトリウム検査）を特定検査等に導入

・親族等死亡時の諸手続きをスムーズに「ご遺族手続きサポートコーナー」実現。

・運転免許証返納後の移動手段を今後も考えていく必要性。(はい)

問2：コロナウイルス感染症拡大の中（ポストコロナ社会も視野に入れて）で、市民が安心して住みやすいまちにしていくために、住民・若者・女性の声を聴きながら市政運営全般を推進している守屋市長の下支えとなっており、職員の指揮監督をしていると考えます。

横田 英司

問1：「市民のくらしと平和を守る」の観点から取り組んできました。平和の問題では、予算特別委員会で、平和推進事業が形骸化しないように、質問し、小田原市平和都市宣言を守る旨の答弁を引き出しました。くらしの問題では、国保料や消費税の値上げについて、市長に国に意見・要望を求めるとともに、市の独自施策で痛みを軽減する施策を提言してきました。また、デジタル化では、市民の個人情報を守られるのかと質問してきました。(はい)

問2：私は、政策監という特殊な職務から生じる、公私・政務と公務の区別、行動の透明性とチェックが確保されない問題を質疑しました。

答弁は、「課題解決の進捗が確認されますことで、結果としてこの職の成果というものは明らかになる」「政策監の行動の確認方法につきましては、当然、日々の行動を逐一公表するという事は考えてございません」。政策監が何をしているかは、直接知ることはできないのですから、有害無益です。

ご協力いただきました議員の皆さんに感謝申し上げます。WEBへのリンクについては当方でQRコードを付加させていただき、アクセスの容易化を図りました。議員の皆様様の活動考え方の一端が現れました。今後とも市民との意見交流を通じ、市政の発展に寄与されることを願うものです。

《月例会のお知らせ》

当会は、『議会と市民の皆さんの懸け橋』となるべく、毎月、勉強会を開いています。みなさまも、一緒に如何ですか？ お気軽にどうぞ。

原則毎月 第一火曜日 9時半～12時

『いそしぎ』（保健センター隣り）

2階 講習室

市議会開催と重複時は議会傍聴にしています。

当会のホームページをご覧ください！

政務活動費令和3年度領収書の電子化中！

7月末にHPに掲載予定

ホームページ
みてね！



<https://osgksk.web.fc2.com/>

小田原市議会を考える市民の会



検索 して下さい。